

藤田医科大学病院が 高度救命救急センターに指定されます

藤田医科大学病院（愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1 番地 9 8 病院長：湯澤由紀夫）は、新型コロナウイルス重症患者を含めた特殊疾患に対する治療実績が高く評価され、4 月 1 日付けで愛知県より高度救命救急センター*に指定されます。県内では愛知医科大学病院に続いて 2 カ所目、全国では 43 カ所目となります。

*高度救命救急センターは 3 次救急を担う救命救急センターの中でも、広範囲熱傷や指肢切断、急性中毒等の特殊疾患に対し、高度な救急医療を提供できる病院として厚生労働省が定め、県が指定するものです。

■新型コロナウイルス重症患者を積極的に受け入れ

1979 年に 3 次救急病院に指定された当院は、地域医療の砦として 24 時間 365 日すべての患者さんを受け入れる「断らない救急」を実践してきました。心血管救急、脳神経救急、外傷、熱傷、中毒の専門医が 24 時間常駐する救急応需体制は、全国でもトップレベルといえます。新型コロナウイルス感染症の治療においても、体外式膜型人工肺「ECMO（エクモ）」を備え、愛知県内の重症患者の約 20%を受け入れるなど中心的な役割を果たしています。

■「ECMOカー」を今夏導入予定。「ドクターカー」との W 体制で救命率向上へ

「ドクターカー」の基地病院として、緊急時には医師と看護師が救急現場に駆け付ける病院前診療の体制も整っています。さらに感染第 4 波の到来に備えて、今年の夏には補助循環装置を装着したまま重症患者を搬送できる「ECMOカー」を配備予定。これにより広域からの新型コロナ重症患者の搬送も可能になります。緊急性が高い場合は「ドクターカー」、重症度が高い場合は「ECMOカー」と使い分けることで、さらなる救命率の向上が期待できます。

■県全体の救急医療への貢献をめざして

高度救命救急センター長は、引き続き岩田充永センター長（写真右）が務めます。岩田センター長は、「愛知県内にある 24 の救命救急センターでは、いまま新型コロナウイルスとの闘いが続いています。当センターが各病院と連携し、重症感染者の受け入れや ICU の病床不足などをカバーすることで、愛知県全体の救急医療体制の向上に貢献してきたいと考えます」と話しています。



■万全の集中医療体制

高度救命救急センターには、救急外来（ER）のほか、術後の全身管理を行う救命 ICU（集中治療室）、脳血管疾患の治療を担う NCU（神経系疾患治療室）、循環器系疾患に特化した CCU（冠動脈疾患治療室）、複数の診療科にわたる疾患を担当する GICU（全身的疾患集中治療室）、熱傷や中毒を専門とする災害外傷センターを備えています。病院全体の病床数 1,435 床のうち 50 床が高度救命救急センターの専用病床となっています。